

朝鮮通信使と京都 泰平の時代の国際交流

はじめに

江戸時代は「鎖国」時代だったか？（省みられなかった東アジアとの対外関係）

①「鎖国」令という名の法令は出ていない。「鎖国」=1801ケンベル『日本誌』中の訳語
・キリシタン禁制→日本人の海外渡航禁止・帰国禁止（出入国管理の厳格化）

☆抜け穴=釜山倭（和）館の日本人・薩摩藩士の琉球渡航

②幕府の貿易独占→長崎奉行の先買権

☆抜け穴=対馬藩の朝鮮貿易・薩摩藩の琉球貿易・松前藩のアイヌ交易

長崎での商人（特権商人→一般商人へ（相対取引））・抜荷（特に薩摩藩）

1. 1630年代以降の京都（伏見を含む）の町人がみることのできた外国人

①朝鮮通信使の一行11回 ②琉球国使節（慶賀使・謝恩使）18回

③オランダ商館長の江戸参府団166回 ④中国人=萬福寺住職とその従者たち

2. 朝鮮通信使の場合

①宿舎 大徳寺 三回 本国寺 七回 本能寺 一回

②規模 約四百名+対馬藩士+荷駄・輿担ぎ、乗馬の人夫や馬方。楽士も同行。

③京都五山と対馬以酌庵輪番碩学僧

・対州修文職として幕府が任命（2年交代各2名・東福寺・天竜寺・相国寺・建仁寺）
通信使江戸往復には対馬から随行。（加番役として大坂から随行の場合もある）

・相国寺慈照院の別宗祖縁と正使趙泰億らとの交遊(1711)=正徳元年

④天皇（禁裏）と朝鮮通信使

・朝鮮通信使がみた天皇の地位についてのふたつの議論

1)倭皇（天皇）虚位論「号令天皇より出です。ただ年号、曆書を以て国に行う。」「大将みずから関白となり国命を執行する。」申維翰『海游録』（1719）

2)「倭皇と対等抗礼すべし。」趙巖『海陸日記』（1768）

・天皇周辺の朝鮮通信使に対する関心

1)八条宮（桂宮）の宿舎・大徳寺訪問（当主は後陽成天皇弟・智仁）1624（寛永元）「我
国之人物・威儀を観光之為」「畏頭掩面、服色異常」

2)鳳林承章と後水尾院 『隔冥記』の献上品 黄精薬・唐扇・朝鮮筆（規伯玄方より）

3)南龍翼『扶桑録』（1655・明暦元）従事官「義成、倭皇の請により彩牋数幅を使臣に贈
る。手書得るを請う。それぞれ古詩を以てこれを給す。」（当時の天皇は後西天皇）

朝鮮通信使の来日年表（京都関係を中心に）

西紀	年代		干支	正使	総人員	使命 (名目)	京都所司代	京都御 走(主とし による)	往路京都 滞留日程	復路京都 滞留日程	宿泊 場所
	朝鮮	日本									
一八一一	文純 祖	8.11	辛未	金履善	三二八	家齊襲職	酒井 品進守	-	-	-	-
一七六四	宝英 曆祖	14.40	甲申	趙巖	四七七	家治襲職	阿部伊 正守	本多 康恒守	一 七(着龍 觸)・二 八(町集 觸)・三 九(頃) ・四(頃)	四(龍 觸)・三 集(集) ・四(町 觸)	同右
一七四八	延英 享祖	5.24	戊辰	洪啓禮	四七五	家重襲職	牧野備 貞通後守	松平美 濃守	五(一 覽)・三 から五 ・四	六・二〇(一覽)	本國寺
一七一九	孝肅 保宗	4.45	己亥	洪致中	四七五	吉宗襲職	松平伊 忠固守	本多下 康命守	二九(一 覽)・一 九・一	三一(海 游録)・ 一	本能寺
一七二一	正肅 德宗	元37	辛卯	趙泰億	五〇〇	家宣襲職	松平紀 信庸守	本多 康慶守	二九(一 覽)・二 八(一覽) ・一〇	八(覽書) ・四(一覽) ・二	同右
一六八二	天齋 和宗	2.2	壬戌	尹趾完	四七三	綱吉襲職	福葉丹 正通後守	本多 康慶守	八(実紀 ・一覽) ・七	九(一覽) ・二六(一覽) ・海日	同右
一六五五	明孝 曆宗	元6	乙未	趙珩	四八五	家綱襲職	牧野佐 成渡守	本多 康命守	九(一 覽)・一 六(実紀) ・一	一(一覽) ・二六(一覽) ・一(実紀)	同右
一六四三	寛仁 永祖	20.21	癸未	尹順之	四七七	家綱誕生	同右	松平山 忠固城守	六(一 覽)・四 (一覽)・ 二	六八(隔 費)・八 ・二	同右
一六三六	寛仁 永祖	13.14	丙子	任統	四七八	泰平之實	同右	岡部 宣勝護守	子二(一 覽)・二 〇(一覽) ・一(一覽) ・一(一覽)	丙一(四 子)・二 〇(一覽) ・一(一覽) ・一(一覽)	本國寺
一六二四	寛仁 永祖	元2	甲子	鄭岍	四六〇	家光襲職	板倉周 重宗守	未詳	一(一 覽)・一 九(東 樞) ・二(東 樞)・一 五(東 樞)・一 九(東 樞)・一 九(東 樞)	七(丙子) ・一〇(一覽) ・一	同右
一六一七	元光 和海	3.9	丁巳	吳允謙	四二八	回大 答來平 剛定選	同右	倉本 多正純 執事板	(紀)・一 ・二(一 覽)・二 〇(一覽) ・二(一覽) ・二(一覽)	-	同右
一六〇七	慶宣 長祖	12.40	丁未	呂祐吉	五〇〇	修好 兼剛・ 遇答	板倉伊 勝重守	(泰行)板 倉勝重	四(一 覽)・一 二(一覽) ・一(一覽) ・一(一覽) ・一(一覽) ・一(一覽)	五八(美 紀)・二 九(美 紀)・九 ・六(一 覽)・六 ・七	大徳寺

史料略称 「一覽」=通航一覽、「実紀」=徳川実紀、「丙子」=丙子日本日記、「覽書」=京都御役所向大概覽書、「町触」=京都町触集成、「隔費」=隔費記